

## 「トヨタ行動指針」の策定にあたって

---

1937年の創業以来、トヨタは、革新的かつ高品質な製品とサービスの提供への不断の努力を通じ、社会・地球の持続可能な発展への貢献に努めて参りました。その中で共有・伝承されてきたトヨタの企業理念をとりまとめ「トヨタ基本理念」(1992年制定、1997年改正)を制定しました。また、基本理念の実践するうえで共有すべき価値観や手法を「トヨタウェイ」(2001年作成)にまとめ、次代への伝承を図りました。これらを通して「モノづくりを通じた豊かな社会づくり」の実現に向けて邁進しています。

トヨタは常に企業として担うべき社会的責任を積極的に果たしたいと考えてまいりました。事業領域のグローバル化に伴いこうした考え方を再確認するために、2005年1月に「社会・地球の持続可能な発展に対してどう貢献するのか」という観点で「トヨタ基本理念」をステークホルダーの皆様との関係を念頭に解説した「社会・地球の持続可能な発展への貢献」を作成しました。

**トヨタ基本理念を確実に実践することがトヨタに期待される社会的責任を果たすことです。** 私たちは、各自の業務分野で職務を遂行する際には、基本理念および解説書の冒頭で宣言しているとおり、**国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠意を尽くし、奢らず謙虚に行動しなければいけません。**「トヨタ社員の行動指針」策定当時(1998年)と比べ、トヨタははるかに社会的関心の高い立場となっています。また、個人情報保護法など新たな法規制や考え方が登場するなどの社会背景の変化も踏まえ、「トヨタ行動指針」を新たに策定し、「**ルールを守り誠意ある行動を行う**」ための**基本的な心構え**を分かりやすくまとめました。

私が皆さんに特にお願いしたいのは、**オールトヨタの一員としての自覚**を持っていただきたいということです。トヨタは、グローバル競争・国際化・多様化の時代において、オープンでフェアな企業活動に努め、全世界でお客様・社会から厚いご支持・ご信頼を得たいと思っております。そのためには、私たち一人ひとりが、トヨタの置かれた立場を自覚し感謝の念をもって、社会的常識を踏まえて、良識ある行動を「**愚直に、地道に、徹底的に**」とっていく必要があります。皆さんが「トヨタ行動指針」を熟読し、その精神を実践されることを、切に期待します。

2006年3月

トヨタ自動車株式会社  
代表取締役社長

渡辺捷昭